

議長（志村 忠昭）

これをもって、8番古川幸義議員の質問を終わります。

次に、7番、小川保君。

議員（小川 保）

失礼いたします。7番、小川保です。

本日は、瀬戸内国際芸術祭 i n 高見島の総括、そして多度津町の今後のあり方など、関連して質問いたします。

質問に入る前に、故佐々木勇議員に対してご弔意申し上げます。

私ども平成会の先輩議員であります佐々木勇議員が先日11月24日ご逝去なさいました。

連続6期、21年と9カ月の間、さまざまな要職を歴任され、いまだ志半ばと議員活動に精進されておりました。

そのお姿は、まことに、私ども駆け出しの議員あるいは仲間たちなどの滯尽くしとして、常々ご指導いただいております次第であります。

まことに残念でなりません。

ここに謹んでご弔意申し上げます。

さて、質問に入ります。

先日、本町にとっては2度目の瀬戸内国際芸術祭 i n 高見島が行われました。

10月8日から11月6日までの30日間の開催であり、この間2万1,000人余りの来島がありました。

実質27名ほどの住民のふだん静かな島が、このときばかりはたくさんのお客様をお迎えしての賑わいでありました。

どんな形であれ、賑やかに催しが行われることは大変有意義なことだと評価しております。

そのことはさておいて、何事も総括が肝心です。

担当課長にお尋ねいたします。

まず、町からの支出状況はいかがでしょうか。

大まかな項目、例えば香川県に対して幾ら支出したのか、また町独自として設備、準備品などの製作、設置などハード面の支出についてご回答ください、お願いいたします。

産業課長（岡部 登）

おはようございます。

小川議員の瀬戸内国際芸術祭 i n 高見島についての内、町からの支出状況並びに独自のハード面の支出についてのご質問に対し答弁をさせていただきます。

瀬戸内国際芸術祭2016につきまして、30日間、来場者数2万1,028名と、大き

な事故もなく無事に終えることができましたことは、議員皆様を初め瀬戸内国際芸術祭にご協力をいただきました皆様方のおかげであります。

この場をおかりして改めて御礼申し上げます。

さて、町から県への支出状況ですが、平成28年度予算として325万円が香川県実行委員会負担金として支払われております。

これは、平成26年度の100万円、平成27年度の325万円と合わせて、3年間の合計750万円が今回の瀬戸内国際芸術祭2016に対する香川県実行委員会への負担金の総額でございます。

次に、町の実行委員会には本年700万円を支出し、その支払いは現在行っておりますが、主なものを申しますと、多度津駅と港の間のシャトルバスの10月分代金が51万円、ピンバッジ作成代金が約50万円、東港町駐車場整地代金が約46万円、スタッフなどのフェリー回数券が約44万円などとなっております、11月末現在の支出合計は約525万円となっております。

今後、高見島で30日間使用させていただいたお礼として高見いこいの家の和式トイレを洋式にかえるなど、島の方々の意見に基づいた支出を行っていきたいと考えております。

以上で小川議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

ありがとうございます。

次に、職員あるいは外郭団体への労働に対するソフト面の対価など、支出金額の決算はいかがだったでしょうか。

また他方、収入面においてはいかがでしょう。

例えば、県からは逆に助成金あるいは町内の皆さんが店舗開設された収入面などなど、現時点で発表できる内容、把握できている内容などに関してお答えいただき、その結果、物質的収入、精神的効果など全ての収支に対してどのような収穫があったのでしょうか、お答えください。

産業課長（岡部 登）

小川議員の瀬戸内国際芸術祭 in 高見島についてのうち、労働に対するソフト面の対価などの支出状況や収入面、並びに収支に対してどのような収穫があったのかについてのご質問に対し、答弁をさせていただきます。

今回、ボランティアの方の人数は延べ180名、県並びに町に雇用された臨時職員等は延べ228名、産業課職員は延べ222名、それ以外の町職員は延べ206名となっております。

その対価でございますが、先ほどの実行委員会からの支出は除いても、直接的にかかわった臨時職員の給与や正規職員の超過勤務手当、またその正規職員の日常業務をカバーしたために発生した他の職員の超過勤務手当など、ど

こまでを含めるかにもよりますが、前回同様500万円程度の金額になっていると考えられます。

一方、収入面ですが、寄附金という直接的な収入が28件、125万5,000円ありました。

また、町内5事業者から成る多度津町上水道工事業協同組合が高見島の待合所のトイレを男女とも洋式に改修して寄贈してくれました。

ほかにも、町を通さずに直接さざえ隊にベンチを寄贈されたライオンズクラブや、無償で環境整備をしてくださった方々も多数いらっしゃると思います。

また、島内に出店した方たちの収支は不明ですが、次回に向けて出店場所を変更したいとかメニューを変えたいとか、収益を上げるための前向きな意見を聞くことができました。

次に、精神的な効果ですが、お年寄りの笑顔は若者を笑顔にすると福武財団の最高顧問である福武総一郎氏も言っているように、世代を超えた交流は双方に好影響を与えます。

今回、ボランティアに学生を多く配置したのもそのためで、多度津高校、禅林学園、香川短期大学、ポリテクカレッジなど、彼らの若さが芸術祭に活気を与え、その笑顔が島のお年寄りを笑顔にしてくれました。

また、町職員も瀬戸芸を経験せず、高見島に行ったことがないのでは、せっかくのチャンスを無駄にしていまいます。

そのため、なるべく多くの職員が島に渡れるように配置しました。

ただ、それによって一部の職員に負荷がかかり過ぎたこともありましたので、実行委員会のあり方も含め今後検討していく必要があると感じております。

今回も反省点は多く、全ての収支をつまびらかにすることは難しいと思いますが、芸術祭の経験が人にも多度津町にもよい効果を残せるように、意見を集約して次回につなげていきたいと考えております。

以上で小川議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

ありがとうございました。

さて、丸尾町長にお尋ねします。

瀬戸芸高見島は、今後の課題を含めつつ次の3年後にはどのような形が望ましいのか、多度津町全町的にいかに展開すれば町活性化の一助となり得るのか、お考えをお聞かせください。

町長（丸尾 幸雄）

小川議員の瀬戸内国際芸術祭 in 高見島についてのうち、今後の課題を含

め活性化に向けてどのように展開していくのかについてのご質問に対し答弁をさせていただきます。

瀬戸内国際芸術祭開催の目的は、離島振興と地域の活性化であります。

また、瀬戸内の島々は離島、過疎などという言葉で表現されることがありますが、それは近代化から取り残された場所なのではなくて、近代化の波に流されずに日本人が本来持っていた心のあり方や暮らし方が今も存在している場所ということでもあります。

古いものを壊して新しいものをつくり続け、都市に人が集中しながら人口が減少している現在、働ける世代と高齢者の世代のバランスが崩れている現在、全ての世代で考え方、価値観を転換していくことが求められております。

都市と自然あふれる島々をつなぐことによって、都市に住む人々にはよい影響を与え、島に住む人々は活気をもらい、お互いのよさを認め合いながら持続可能なよりよい社会を構築していくことが瀬戸内国際芸術祭の理念と考えております。

この3年に1度のイベントを、高見島だけではなく町全体に拡大していきたいと考えております。多度津町にも著名な芸術家が存在いたします。

そのような活躍されている方々を町外へアピールできるようなイベントも必要だと考えます。

今回も町内在住芸術家の作品で町内にある場所を記した地図を作成し、瀬戸内国際芸術祭に来られた方々に訪れていただくためにJR多度津駅やフェリー乗り場の案内所などに配置をいたしました。残念ながらそれを利用して町内を散策された方は少なかったように思います。

3年後に予定されております瀬戸内国際芸術祭では、町歩きのボランティアの方々とコラボしてのイベントなども考えてまいります。

このほか多方面よりご意見をいただきながら、多度津町の全員が瀬戸内国際芸術祭に何らかの形で参加できるような町民挙げてのイベントを目指してまいります。

以上で小川議員のご質問に対する答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

町長、ありがとうございます。

次に、お尋ねいたします。

その前に、まさしく瀬戸芸を契機として全町的な芸術の祭典とするよう、瀬戸芸を生かしての展開もあろうかと思っております。

多度津町には、全国の、世界の芸術家、プロの先生方がおいでます。

また、日展に入選されたり、多岐にわたって活躍されている方々もおいでま

す。

その皆様を中心として、文化の日なども包含してさまざまな角度からオール多度津で展開ができそうです。

ぜひ、熟慮しつつ、多度津の知名度を上げる工夫をお願いしたいと思います。

もちろん文化は美術のみならず、音楽も料理も、そして文芸も、さまざまなジャンルがあって、総合的な芸術文化、こういったこともお考えいただけたらと思います。

改めて丸尾町長にお尋ねいたします。

瀬戸芸の最終日近くに本通の合田邸が一般公開されました。

4日間で延べ約4,000名の方々が見学に来られたとのことのお話です。

合田邸を応援するボランティアの皆さんと多度津町の行政、各チームのボランティア活動のご努力で見事に見学会にこじつけた成果は大変有意義なことです。

多度津町のかつての豪商の屋敷が今も現存していること、これは奇跡です。

これを逃してはなりません。

林求馬邸、そして古民家再生によるビジネスプランなど各ポジションをつなぐゾーンとして、いかようにしてこれらを活用することができるのか、つまり今や個人の力だけではないかんともしがたいのではないかと誰もが認識しているところではないでしょうか。

この件について、丸尾町長のお考えを、将来への希望的観測もあわせてご意見、お話など伺ったらと存じます。お願いします。

町長（丸尾 幸雄）

小川議員の合田邸等の保存及び活用等についてのご質問にお答えをいたします。

現在、町行政にとって人口減少対策、地方創生というのが喫緊の課題であり、多度津町の歴史、伝統、文化を生かした魅力あるまちづくりが必須だと考えております。

この合田邸は、多度津七福神の一人であります合田房太郎氏と多度津町長や貴族院議員を務めた合田健吉氏親子が建てた邸宅であり、昭和初期ごろにおける良質で大規模な建築物群を今に残しております。

近代において、県下でも随一の発展を見せた多度津町の歴史を示す貴重な建築物であると考えております。

これまで、個人所有の住宅でありましたことから町としての関与は行われておりませんでした。現在文化財の保存という観点だけではなく、まちづくりという観点からも、所有者の意思を尊重しながらではありますが、保存活

動に取り組んでおられる地域の方々と協力をして、合田邸の保存と活用について検討を始めております。

一方で、合田邸だけというよりもより広く、いわゆる面的に考えていく必要があるのではないかと感じております。

多度津町には、合田邸のある本通をはじめ、西浜や東浜、家中などで古い町並みを見ることができます。

これらの町並みは、感覚的に大事なものだと思ってもその本当の価値については明確にはなっておりません。

そこで、町民の方々も行政の側も、これらの町並みの本当の価値についてより正しく理解するために、町並みに関する調査を実施したいと考えております。

このような町並みの調査に関しては、町並みの価値を十分に認識した上で、都市計画や空き家対策等の施策と絡めながら利活用していきたいと考えております。

その際には、古民家再生に強い意志を持っているボランティアの皆様と連携、協調して、町内に残された資源の掘り起こしや価値の再認識を行い、歴史ある自然を生かした魅力ある、独自性のあるまちづくりに邁進していきたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

ありがとうございます。

次に、高見島の旧校舎を含む島環境の積極的活用について質問いたします。

東京都町田市の玉川大学から八木橋先生を初めゼミ生たちが毎年ゼミ合宿に来られ、高見、佐柳合同運動会に参加、お手伝いをいただいております。

これらを踏まえて、設備の整備事業を考えていただけませんかでしょうか。

丸尾町長、お考えをお願いいたします。

町長（丸尾 幸雄）

小川議員の高見島の旧校舎を含む島環境の積極的活用についてのご質問にお答えをしております。

現在、高見島小・中学校の旧校舎は、高見島研修センターとして児童・生徒等が豊かな自然環境の中で集団宿泊学習を行い、自然観察や体験学習を通じて生活創造の意欲と忍耐力、自立心を培い、もって健全な成長を図ることを目的とし、教育委員会が管理をしております。

今年度開催されました瀬戸内国際芸術祭の際にも、旧校舎がアート作品の展示場として利活用されましたことはご記憶に新しいことだと存じます。

そのほかにも、四箇小学校5年生の集団宿泊学習や多度津町子供会育成連絡協

議会による福野町との交流、今は福野町じゃありませんが、南砺市の福野町エリアとの交流事業及びわんぱく寺子屋や多度津町野球スポーツ少年団の交流会等、毎年5件前後の利用をいただいております。

ただし、施設につきましては、エアコンやトイレ、シャワー等の修繕、改修が必要であり、利用の際にはご不便をおかけしているのが現状であります。

今後も高見島の積極的活用に関し、利用者の方々からの意見、要望等をお聞きし、島内にある民宿経営への影響や町の財政状況や費用対効果も勘案しながら必要な整備を行ってまいろうと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（小川 保）

ありがとうございます。

今、丸尾町長からいろいろな高見島の設備について、今後の利用の仕方等々お話いただきましたけれども、私今から要望ですけれども少し申し上げますが、要は現状の設備を単に町内のあるいは近隣の諸君と一緒に利用していくということだけでなく、私がイメージしておりますのは多度津町全体、もちろん高見島がその主役的存在になろうかと思っておりますけれども、稼ぐ力ということも考えていったほうがいいんじゃないかなと思ひまして、今から要望を申し上げます。

少し長い前振りになりますけれども、ご了解いただいたらと思います。

先日、11月14日から16日の3日間、関東地域に研修視察いたしました。

私ども町議会建設産業民生常任委員会一同は、3日間の午前午後の時間を有効に活用して、6カ所にわたる研修視察をいたしました。

時系列に申し上げますと、港区国立新美術館、相模原市行政視察、町田市玉川大学、港区TEPIA先端技術館、千代田区国会議事堂並びに憲政記念館、渋谷区國學院大学並びに附属博物館など、たっぷりとさまざまな研修をして知識見識を醸成してまいりました。

それぞれの研修にはそれぞれの有意義な中身がありましたが、特に玉川大学を訪問しました内容についてご報告申し上げます。

長年にわたる八木橋ゼミによる高見、佐柳合同運動会への支援に対するお礼も兼ねて、多度津町長丸尾幸雄氏の名代として表敬訪問いたしました。

先様にはお忙しい中を、理事長、学園長を兼務されている小原学長を初め、菊池理事、照屋学部長、八木橋教授、そして八木橋ゼミの学生さんたちとたくさんの方々とお会いし、打ち解けたお話をさせていただきました。

学内は深い緑の中に点在する校舎群、丘陵地全体が学校の広大な敷地である大学校内に足を踏み入れた瞬間、私は少しの興奮を覚えました。

あっと思ったのは、正面にそびえるコリント洋式の壮大な本館ではなく、そ

の横に、同じように壮大であるが、おしゃれな総ガラス張りの教職員や学生たちの食堂などがある厚生等でもなく、その総ガラス張りの正面に掲げられた大きな横断幕にあります。

それには、祝芥川賞、村田耶香と書かれておりました。

あ、そうか、あの「コンビニ人間」は玉川大学の卒業生だったのか。瞬間、私は少なからず感動を覚えました。

また、私どもメンバーが学内のトイレをお借りしましたが、素晴らしいトイレ設備です。

清潔で近代的なぴかぴかの設備を気持ちよく利用させていただきました。

きれいな澄み切った空気と、森の中に点在する伝統的な建物や近代的な建物が融合した教育環境の中を私どもも散策いたしました。

町長名代として玉川大学に表敬訪問させていただいたチャンスに、私ども常任委員会のメンバー一同、ありがたく感謝したことであります。

彼らを高見島にお迎えできることは、町民の一人として感激であります。

そして、玉川大学だけではなく全国の学生たちのゼミ合宿用として、海と山の静かな環境を提供する、そのことを売りにしたPRをすればいかがでしょうか。

それには、せめて清潔で近代的な利用しやすいトイレ設備をお願いできたらと要望いたします。

最後に、多度津町の政策については、お金がない、お金がないと、常々予算の使えないことの悩みを聞かされております。

その中で、丸尾町長は知恵を使ってさまざまな催し物をし、多度津の知名度アップなど、活性化などを図っております。

先日の四国新聞に3市を結ぶ自転車コースの記事がありました。

旧引田町時代の1990年度に設置されたASAトライアングル交流圏推進協議会の今年5月の総会で提案があり、事業化を目指すとなりました。

一部記事を読ませていただきます。

「東かがわ市は、多くのサイクリストが訪れる淡路島を介して関西圏の自転車愛好家を市に呼び込もうと、徳島県鳴門、兵庫県南淡路の両市と連携し、3市をつなぐサイクリングのモデルコースを設定する。既存の道路を結ぶコースで、2017年度、その年度中の利用開始を目指す。事業費は、国の地方創生推進交付金を活用、コースの起点、終着点となる東かがわ市は市内での宿泊者数の増加が期待される。市商工観光課は、関西からの交流人口増加によって市を活性化したい、サイクリスト目線の新たな地域資源発掘にもつながればとしている。」と、抜粋ですけれども。

私も自転車は好きで、時折ですが、今治からしまなみを走って楽しんでおり



ます。

カマタマーレのホーム戦は、自転車で応援に行ったりしております。

以前、瀬戸内圏の自転車ロードを整備できればいなどお話しした記憶があります。

これは一部の方にですけれども、つまり、多度津町の海岸線から今治に向けて走る道、しまなみ海道を走り広島、岡山を周遊して瀬戸大橋を自転車で渡り多度津に帰ってくる。

ぐるっと瀬戸内コース、これが完成した暁にはツール・ド・瀬戸内を開催し、世界のプロのロードレーサーたちが瀬戸内海を走りに来てくれる。

一度にはもちろん無理でしょうけれども、国の地方創生推進交付金を利用して、道を順次整備していけばおもしろいかなというふうに思います。

もちろん人はそれぞれ様々なお考えをお持ちです。

今後、私どもも行政の皆様と発展的に物事を進めていきたいと思っております。

よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です、ありがとうございます。

議長（志村 忠昭）

一応要望ということで、町長、言うことありますか。

要望ですけれども、答えだけお願ひいたします。

町長（丸尾 幸雄）

ご要望ですからお答えする必要はないかも知れませんが、今のお話をお聞きしてございまして、少し感じた、随分と遠大な構想だし、また高尚な計画だと思っておりますし、そういうことが今の地方創生に大変必要なことじゃないか、重要なことじゃないかと感じましたので、少し私の私見を述べさせていただきます。

やはり小さな多度津町の中で考えていくのではなくて、少し大きい中讃広域、丸亀市を中心とした定住自立圏、もう少し広げて香川県、また今お話しのような他市町と連携してのまちおこし、活性化、そういうことが今から望まれているんじゃないかなと思っております。

そういうことによって、広いエリアでのこの地域に子供たちが帰ってくる、移住、定住の促進、また民間のそれぞれの活力の増大につながるのではないかと感じておりますので、そういう考えを私どもの町だけじゃなくて、近隣市町と連携をしながらやっていく体制をとっていかなければいけないと思っております。

そのためには、どうか皆様方のご理解とご協力もお願い申し上げて、私が感じたこと、私見を述べさせていただきました。ありがとうございます。

